平成30年度　柘植地域合同防災訓練
事前アンケート結果

柘植地域の皆さまに、２０１９年の新春を寿ぎご挨拶申し上げます。

今年も年明け早々、熊本地方で震度６弱の地震が発生して昨年からの憂慮される事態が続いております。遅くなりましたが、昨年の防災訓練前に「事前アンケート」として皆様の防災意識や準備状況などについてお伺いしましたところ、誠実に多数ご回答頂き誠に有難うございました。ここに結果を報告させて頂きます。

なお、『まちづくりだより』紙面の都合上、全てを網羅することが出来ませんので、主要な事項についてこのファイルにて報告させていただくことをご了承ください。

アンケートの元データなどは、各区区長様や各区自主防災実行委員様が「紙ベース」でお持ちですので、そちらを参照していただきますようお願い申し上げます。

このアンケート結果が各区ならびに柘植地域の今後の防災力向上の貴重な資料となることを心より願っております。

Ⅰ　アンケート作業日程

・配布：８月１７日（自主防災実行委員を通じ各区に配布し、各世帯へ）

・回収：９月１３日（１２区連絡協議会日に各区から回収）

・集計作業：９月２９日～１１月７日

Ⅱ　アンケート配布・回収数

【Ⅰ】　全世帯対象

・配布数：１，０８６世帯

・回収数：　　７１７世帯（回収率66%）

【Ⅱ】　ペット飼い主対象

・各区からペット飼育世帯に配布

・回収数：１８０世帯

Ⅲ　アンケート結果報告

・各区長・自主防災実行委員及びまち協運営委員へ、紙ベースでデータ資料を報告

・柘植地域各世帯へ「まちづくりだより２月号」紙面により報告

・ホームページを通じて、このファイルを報告

平成３１年１月３１日

柘植地域まちづくり協議会

自主防災実行委員会

合同防災訓練事前アンケートの項目別分析

1

全般・自助

防災訓練への参加状況

① 過去3年間で毎回参加している方は回答者の約65%、2回10%、1回13%であり、一度も参加していない方の理由は、多忙4%、興味なし1%で、大多数の方は1回以上参加している。

避難所先の認知度

① 原則として何処の避難所に避難することになっているかについて、知っていると答えた方は92%5%の方は知らないと回答しており、更なる周知を図る必要がある。

家族の安否確認手段

① 76%の世帯で決めており、そのうちの83%は電話で直接確認と回答されましたが、電話は緊急時の回線確保のため通話統制がかかるようなので、伝言ダイヤル(171)や各種伝言サービスの利用について啓発を進める必要がある。
② 安否確認手段を決めていない世帯には、その必要性と重要性をわかりやすく説明する。この際、一人暮らしの方にも、丁寧な対応が必要である。

非常持出品の準備

① 持出品を準備する場所については、寝室22%、玄関21%、車2%、その他20%で、何れにしても持ち出し容易な場所に準備しておくことが大切である。
② 非常持ち出し品を準備していない世帯は、その時に準備する17%、その時になって見ないと分からない6%、避難する際には何も持って行かない6%と回答している。大災害時の室内の状況や心理状態から、その時に準備することは困難です。予め準備しておく必要がある。

備蓄品の準備

① 日常、防災備蓄品の種類を複数回答可能として聞いたところ、水47%、食料41%衣類17%で、何らかの物を備蓄している方は67%、そうでない方は33%で、3人中2人は備蓄している。敢えて、防災用備蓄品としてではなくても、家庭内には色々なものがあり、ローリングストック等を意識するよう啓発することが必要である。

家具の固定

① 何らかの家具を固定している世帯は46%(タンス・TV/パソコン・冷蔵庫等)で約半数が固定している。
② 家具を固定していない世帯は54%で、その理由は、必要なし、固定の方法が分らない、自分一人では無理と回答しており、実際の固定状況の見学や説明で理解を容易にするとともに材料費は個人負担となるが、有償・無償のボランティアによる支援が必要である。

ガラス飛散防止

① 回答された中の約82%の方は、飛散防止をされておらず、意識が浸透されていない。大震災時、揺れの衝撃により窓ガラスや家具に取り付けられているガラスが破損して怪我をする報告が多数ある。居間や台所など比較的人の集まるところは、カーテンでも効果があるので可能な限り飛散防止対策を行うことが重要である。

耐震診断

① 14%が耐震診断をしていると回答しているが、大多数は実施していないという結果である。耐震診断の必要性は認めても多額の費用もかかることから、実行は困難なことも理解されるが、家屋全体ではなく、一部屋のみ耐震化の方法もあるので、啓発を進めていくことが重要である。

合同防災訓練事前アンケートの項目別分析

2

共助

現住家屋に住めない場合の避難先

① 指定避難所に避難したい

小学校:72世帯、中学校:99世帯、人権センター:28世帯、活性化センター:16世帯が避難したい合計215世帯(30%)が回答しており、指定避難所の重要性が伺われる。

② 区の集落センター、コミセンに避難したい

159世帯(22%)が身近な区の集落センター等に避難したいと答えており、区独自での避難所の開設・運営や避難設備の充実対策の推進が重要である。しかしながら、各区の集落センターは、一部の区を除き、建設から40年前後経過している建物が多く、耐震診断や集落センター等が倒壊した場合の避難先についても、検討する必要がある。

③ 区で指定した車両避難所に避難したい

小学校:2世帯、　中学校:10世帯、　人権センター:3世帯、　活性化センター:なし

各区は設定した車両避難所の場所及び区への報告を区民に知らせておく必要があり、区民は区への報告を忘れないようにすることが重要である。

④ 自宅の離れや農舎等に避難したい

小学校:33世帯、　中学校:45世帯、　人権センター:5世帯、　活性化センター:12世帯

③と同じように、区民は区への報告(変更した場合も同じ)を忘れないようにすることを徹底する。

⑤ あくまでも自宅に避難したい

自己責任で避難することになります。専門家による応急危険度判定結果によっては、他所へ避難する必要性が生ずる場合がある。

⑥ 親戚・知人宅へ避難したい

区民は避難先の住所・所有者名及び連絡手段・電話番号等を区へ報告する必要がある。

共助等に活用できる資機材

ブルドーザー等の大型建設車両や大型発電装置一式及び水質検査済みの井戸等を所持する世帯への協力依頼を区及びまち協が協力して予め取り付けておく必要がある。各種対応要領等を体験されているので、区及びまち協で氏名を確認しておくことが重要である。

ボランティア参加意思

伊賀市内へのボランティア参加意思のある世帯は124件、県内・外への参加意思を持たれている世帯も30件を数える。まち協が災害ボランティアの募集情報を承知した場合は、各種方法により周知する必要がある。

合同防災訓練事前アンケートの項目別分析

3

ペット飼い主さんへのアンケート結果

飼われているペットの種類

① 犬
大型犬:6世帯、中型犬:68世帯、小型犬:67世帯、で飼われています。
② 猫
54世帯で飼われています。
③ 小鳥・その他
インコ、金魚、カメ等5世帯で飼われていますが、もっと多数の世帯に飼われているものと思われます。

避難の主対象は犬及び猫になると思われます。また、介助犬は確認されませんでした。中・小型犬は、小学校対象区内に41世帯、中学校対象区内に65世帯、人権センター対象区内に17世帯、小杉活性化センター対象区内に12世帯あり、各避難所で同行避難について検討する必要があります。

ペットの飼育環境

① 屋内で放し飼いをしているのは66世帯で猫が主対象と考えられます。また、犬猫共に37世帯で、 屋内ケージ内にて飼われています。
② 屋外で飼われている44世帯のほとんどが犬と思われ、玄関先のポーチ等で飼われて居り、また、11世帯では鍵付きのケージで飼われています。
③ 避難所では必ずケージやキャリーバックに入れて鍵をかけることが必要となるので、普段と異なる飼育環境で過ごすことは、ペットにとっても大きなストレスとなります。ケージ等に入っても良いように普段から慣れさせておく必要があります。

ペットの日常食

① 普段、168世帯(93%)でペットフードを食べさせ、手作り食や療法食を食べさせているのは10%程度です。
② 2世帯でペットのアレルギー有りと回答されていますが、飼い主でもよく判らないこともあり注意が必要となります。

排泄場所

① 約150世帯(83%)では、決まった場所で排泄をさせており、30世帯(訳17%)では決まっていない(田畑や道端等)と回答が有りました。
② 避難所では、ケージ内や散歩習慣のある場合は外で必ず排泄させる習慣づけが必要となります。

散歩

① 散歩させると回答したほとんどが犬と考えられますが、犬にとっても必要な行動(活動)であり、飼い主の責任において実施することになります。
② 散歩させない又は不必要と回答されたのは猫やその他の動物が多いと考えますが、普段放し飼いされている動物はケージやキャリーバックに入れられると、かなりのストレスとなるので、散歩など飼い主としての対策が必要となります。

飼い主への反応

絶対服従34世帯の殆どが犬で、気分屋も多数ありました。猫は、その習性から気分屋又は殆ど従わないという回答が多くありました。

予防注射

① 法律で接種が義務付けられているワクチンは「狂犬病ワクチン」で、発症した場合100%死亡する病気です。人は殆どの場合、犬から感染しているようです。接種を『していない』12、不必要10世帯が回答していますが、これらの世帯は避難所へ同行避難は出来ません。
② 猫にも予防ワクチンが3種類程あるようですが、飼育環境や金銭的負担等飼い主によって大きく異なります。すべては飼い主の責任となりますが、避難所のような不特定多数が集まる場所では感染の可能性も高まるので、動物病院等において確認することが必要です。
③ 混合ワクチンやその他のワクチンを接種されている世帯も150世帯程あり、ペットへの愛情の深さが感じられます。また、ノミやダニなどの駆除も112世帯(62%)あり、ペットの衛生環境への配慮が高い世帯の多いことが確認されました。

ペットの避難用具の準備

① ペット全体への質問として、避難用具の準備状況をお聞きしました。ケージ有りが76世帯(42%)、キャリーバック有りが56世帯(31%)と回答されました。
② 119世帯(66%)がケージ又はキャリーバックを準備していないと答えており、この場合、同行避難は困難となりますので、同行避難を考えている方は、必ず避難所でのペットの居場所となるケージ等の準備が必要となります。

ペットの避難備蓄品

① ペットが避難する上で必要な備蓄品は多々ありますが、食料、水の他トイレ砂やペットシーツ等のトイレ用品や食器、薬等を準備している世帯が過半数有りました。
② これら(類似品を含む)は、全て飼い主の責任で準備すべきものであり、無い場合は指定避難所へのペット同行はできなくなります。

指定避難所へのペット同行避難

① ペットを同行避難するつもりは96世帯(53%)で、小学校避難所:26、中学校:49、人権センター:10、小杉活性化センター11世帯でした。その理由の多くは、「家族の一員だから」「ペットだから」「放っておけないから」等ペットを家族の一員として接しかわいがっている様子が伺えました。
② 同行しないつもりと回答したのは31世帯(17%)で、その理由としては、「他人に迷惑をかけるから」が圧倒的に多く、「老犬だから」「犬にストレスがかかるから」「猫だから」等、同行したいのは当然だが、他の避難者やペットのことを思い、同行しないと回答した世帯が殆どでした。
③ 同行しない世帯で指定避難所以外に何処に避難させるかを質問しました。車両避難所17、親戚・知人宅等17、動物病院その他8世帯で、これらの世帯では指定避難所以外の場所を具体的に考慮していることが伺え、飼い主としての責任感の強さに感銘を受けました。

ペットの避難についての自由意見

別紙「アンケートにおける自由意見」の中に、ペット避難についてもまとめましたのでご一読下さい。

ペットの避難についてのまとめ

柘植地域の指定避難所にペットを同行することの是非について、今後検討するための資料収集としてアンケートさせて頂きましたところ、熱心・まじめにご回答頂きまして、ありがとうございました。回答の端々にペットは家族との思いの深さを感じました。しかしながら、大勢の他人同士が生活する避難所へ、その思いだけで同行することができないことは飼い主の皆様も重々ご承知のことと思います。

ある一定の基準の下に、同行を認めるか認めないかを決定せざるを得ないと思いますが、それだけではなく、避難所自体の受け入れ態勢(場所・用具・要領等)をどうするかが決まらなければ、最終決定はできません。これは、指定避難所が現在使用されている公共の学校や施設であって、改修は原則できず、できる場合でも関係行政への申請・許可が必要となります。

今後、他地域や行政の意向も踏まえ、実現可能かを推し量りながら検討を進めていく所存です。また、飼い主の知識・考えを共有するためにも、獣医師などの専門家の講演会開催を担当・所轄行政にお願いしなければならないと考えています。

何時、何処で大災害があるか分りませんが、有っても不思議ではない時代です。、柘植地域まちづくり協議会として、ペット同行避難問題にどう対応すればよいのかを考えて行きたいと思いますので、今後ともご意見、ご協力、ご参加等宜しくお願い致します。